

いつも一緒 富山のペットたち

これからの季節、犬猫に寄生する「マダニ」についてお話しします。

5月以降、当院には「犬の目」の上に急にできものができたと来院される飼い主さんがちらほらいらっしゃいます。診察してみると、できものではなく、吸血してパンパンに大きくなったマダニが食い付いている場合があります。



荒井 靖子

マダニは「節足動物門、ダニ目、マダニ類、マダニ科、マダニ属」に属し、日本には47種が生息しています。そのうち、犬猫に寄生し、県内でよく見かけるマダニは、フタトゲチマダニ、ヤマトダニ、キチマダニなどです。

皮膚から吸血

マダニは、室内のハウスダストに存在するダニとは違い、山や庭、畑、田んぼのあぜ道などの草むらや藪に生息しています。犬の散歩コースになる河川敷や土手、公園にもいます。草むらに潜み、そこを通る野生動物や犬猫の被毛に飛び移るチャンスを待ち構えています。犬猫

マダニ対策

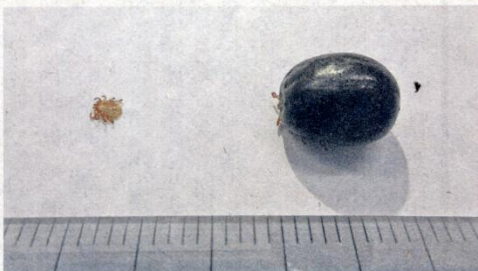
あらい犬猫病院院長
(富山市婦中町下轡田)

の被毛に飛び移ったマダニは、皮膚に食い付いて吸血します。血を吸い終わったマダニは自然に皮膚から落ち、次の機会を狙って草むらに潜みます。

マダニは外に出る全ての犬猫に寄生する可能性があり、顔回り(特に目の周囲や耳の内側)や腹部の比較的被毛の薄い部分に寄生します。吸血したマダニはアズキほどの大きさになることもあります。接着剤のような粘液を出し強固に食い付いていきますので、無理やり取ると、マダニの口器が皮膚に残り、その部分の皮膚に炎症が起きたり化膿することがあります。接着剤

動物の皮膚に食い付いたマダニのような粘液でアレルギー反応を起すこともあります。マダニが付いたら無理に取らずに動物病院を受診しましょう。マダニは感染症を媒介する可能性もあります。マダニが媒介する感染症には、日本紅斑熱、Q熱、ライム病、野兔病、重症熱性血小板減少症候群、ダニ媒介性脳炎、クリミア・コンゴ出血熱などがあります。マダニが吸血するのは犬猫だけではなく、野ネズミ、野ウサギ、シカ、イノシシなどの野生動物の他、人にも吸血します。

感染症媒介 死者も



血を吸ってアズキほどに膨れたマダニ(右)。左は吸血前のマダニ



動物の皮膚に食い付いたマダニ

しています。犬猫でのSFTS発症は確認されておらず、今のところ、SFTSは人のみの感染症と考えられています。SFTSが県内で発生したケースはありませんが、隣の石川では2例の報告があります。富山でもSFTSウイルスに感染した野生動物の存在が示唆されており、SFTSに感染する可能性があると云えます。

肌の露出控える

マダニに吸血されないよう、野外では首、腕、足など肌の露出を少なくする工夫をしましょう。また、犬猫を飼っている場

合には、犬猫にマダニがつくと、人の生活環境にマダニを運び込まないよう注意しましょう。マダニは4〜6月に発生・繁殖し、秋口にも活動が活発になります。今頃からマダニが繁殖できなくなる10月末ごろまでしっかり予防しましょう。犬猫のマダニ駆除・予防には、皮膚に滴下するスポット剤や食べて予防するチュアブルタイプの薬がありますので、かかりつけの動物病院にご相談ください。

「いつも一緒 富山のペットたち」は毎月第1木曜に掲載します。